

基本的な考え方

未来像（コンセプト）

「未来とつながる 人とつながる 新たな自分とつながる」 “できる” が広がる創造空間



(1) 区を取り巻く状況変化等

ア 区を取り巻く状況変化

- ・区民センター建設以降、社会経済環境や生活環境が変化し、区民の暮らしや活動の多様化、地域との関わり等に変化が見られてきました。
- ・デジタル技術の進展等による生活スタイルの多様化や人口減少・超高齢社会の到来予測に加え、新型コロナウイルス感染症による様々な影響なども見据えていく必要があります。区では、基本構想の素案を令和2年10月に策定し、未来を見据えた持続可能な行財政運営として区有施設の計画的な更新への対応もあげています。

イ 区民センターを取り巻く状況

- ・中目黒駅周辺には、大学の開校等に伴い多種多様なコンテンツが創出・発信され、時代の流れに敏感な人たちが集う街への変化が見られます。
- ・目黒駅周辺では、再開発事業を契機としてオフィスビルやタワーマンションが建てられるなど、まちづくりの動きが加速化しており、時代に応じた変化を見せています。
- ・区民センターは目黒駅と中目黒駅の間地点に位置しており、時代に応じた施設を整備することで、区民によるさらなる主体的な活用が期待されます。

ウ 新型コロナウイルスの影響と今後の留意点

- ・行政においても、対面から電話での相談や電子申請の拡充など来庁せずに行える手続きの拡大や、説明会や講座等のオンラインでの実施など行政サービスの変化がみられるようになっていきます。
- ・施設の利用面では、利用に際して活動の制限や人数の制限など感染防止の観点からこれまでとは違った運営を取り入れる必要が出てきました。
- ・新たな区民センターでは、施設に集まることだけを前提とした施設整備ではなく、利用者の多様な選択に応えられるサービスと変化を見据えた空間づくりが求められます。
- ・多様に「つながる」ことを可能とする柔軟な空間づくり、サービス提供など、時代に合わせた質の高い過ごし方、新たな価値を生み出すことのできる公共空間を目指します。

(2) 今後検討を深めていくこと

新たな目黒区民センター整備に当たっては、以下の課題を踏まえながら実現に向けた検討を進める必要があります。これらは相互に関係する要素であることから、それぞれの検討を総合的に進めていきます。

ア 整備手法

- ・効果的、効率的な整備（課題への対応、区民活動水準の向上、財政負担軽減）
- ・リーディングプロジェクトとして求められる効果

イ 整備敷地範囲

- ・美術館（区民センターとの連携や効率的な維持管理、運営等の課題解決 等）
- ・区民センター公園（環境変化への対応、さらなる魅力ある公園空間づくり 等）
- ・下目黒小学校（建替え検討、区民センターを含めた一体の範囲での機能の有効活用 等）

ウ 導入する機能

- ・機能の融合化（多用途に利用できる空間づくり、類似事業の効果的な展開 等）
- ・周辺施設機能の集約化（男女平等・共同参画センター、青少年プラザ、下目黒住区会議室）
- ・効果的、効率的な空間利用（複合施設全体での空間づくり、機能融合の方向性の検討）
- ・民間活力の活用（新規施設の導入、サウンディング調査、エリアマネジメント）
- ・区民センター公園、目黒川を活かした空間

エ 都市計画上の課題への対応

- ・敷地の有効活用に向けた留意点（用途地域、高度地区、開発行為 等）
- ・新たな区民センター整備とまちづくり

<施設整備の方向性>

以下の敷地を含め、学校と一体的に建替え。

- ・区民センター
- ・美術館
- ・区民センター公園
- ・下目黒小学校



<民間活力の活用>

施設サービスの向上や新たなサービス提供に向け、建設及び運営において民間活力を高い割合で活用します。

<集約施設>

以下の施設機能を対象として検討を進めます。

- ・男女平等・共同参画センター
- ・青少年プラザ
- ・下目黒住区会議室